

呉西圏域における移住・定住調査研究の 成果

- 本研究は、富山県呉西圏域における人口減少、とりわけ若年層の流出と移住・定住の課題をテーマとして、実証分析と政策提案の両面から検討したものである。
- 教員による研究では、高校生を対象としたアンケート調査に基づき、地域定着意向の構造を分析し、広域連携モデルを提示した。
- 学生チームによる2つの提案では、スポーツを活用した移住・定住促進モデル、および役割移住による分散型コミュニティモデルを提示した。

- ・ 以下に、本研究の成果を示す。

2026年4月17日

- ・ 教員研究は、2026年3月7日 第16回北陸地域政策研究フォーラム於金沢大学
- ・ 学生2提案は、2026年2月16日 射水市役所報告会にて発表

① 教員研究

タイトル

とやま呉西圏域における人口動態の多角的分離と移住・定住促進に向けた広域連携モデルの提言

紹介文

呉西圏域6市を対象に、人口動態、若年層流出、移住・定住意識を実証的に分析した調査。

高校生・県内在住者を対象としたSPSS分析を通じて、地域定着に影響する要因を明らかにし、単独自治体の枠を超えた「キャリア・ポートフォリオ型定住モデル」を提案。

② 学生チームA

タイトル

**スポーツを核とした富山県呉西圏域における持続可能な
移住・定住促進戦略
—「富山型デュアルキャリア」×「地域交流イベント」
モデル—**

紹介文

スポーツを通じて若年層の移住・定住を促進することを目指した提案。
アスリートのデュアルキャリア支援と、地域交流型スポーツイベントを組
み合わせ、地域経済の活性化、コミュニティ形成、若年層の定着促進を図
るモデルを提示。

③ 学生チームB

タイトル

分散型コミュニティによる「役割移住」モデルの構築と GOSEI移住エバンジェリスト戦略

紹介文

移住者が地域の中で役割を担うことで定着を促進する「役割移住」モデルを提案。

呉西圏域6市の機能分担と人的・社会的資源に着目し、地域に溶け込みながら活躍する移住者像と、その支援制度のあり方を検討。

とやま呉西圏域における人口動態の
多角的分離と移住・定住促進に向けた
広域連携モデルの提言

2026/3/7

修正2026/3/10

高岡法科大学 法学部 教授

八坂 徳明

目次

第1部：研究の射程と地域課題

第2部：SPSS分析による意識構造の特定

第3部：自治体ガバナンスと広域連携の必然性

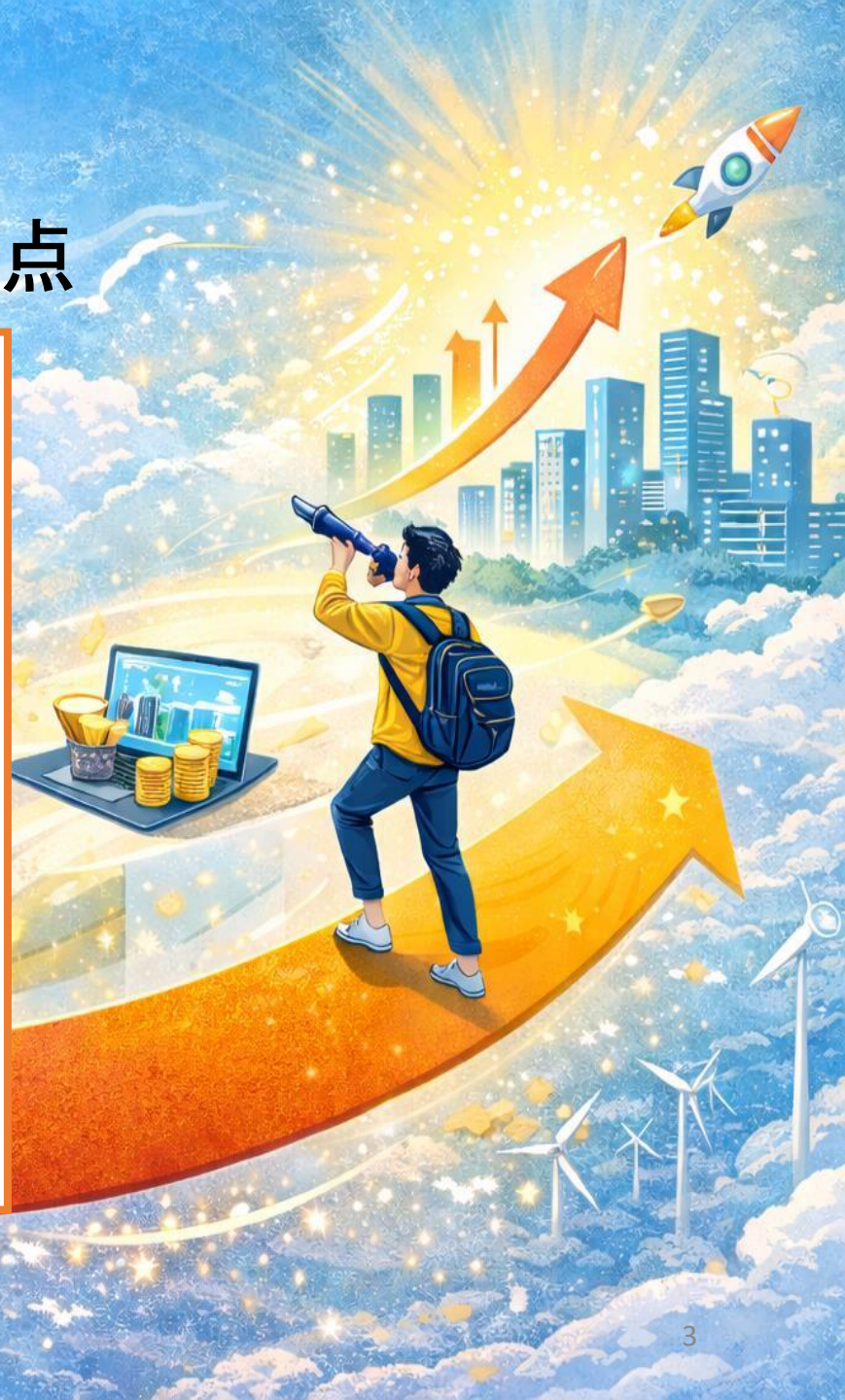
第4部：具体的施策の提言と未来展望

スライド1：研究の立脚点

研究の核心：「住みやすさ」という情緒的指標から「将来のキャリア機会を含む生活・教育環境」というエビデンス指標への転換

分析対象： 呉西圏域6市（高岡・射水・氷見・砺波・小矢部・南砺）の多層的分析

本日の結論： 単独自治体モデルを脱却した「キャリア・ポートフォリオ型定住」の提案



散策マップや見どころスポット



富山WEST <https://toyama-west.net/intro/>

すみやすさとは何？

住みよさランキング

2007

順位 都市名

2 砺波市
74 高岡市
125 射水市
180 南砺市
264 小矢部市
565 氷見市

n = 783

n =

2024

順位 都市名

28 砺波市
58 高岡市
90 小矢部市
126 射水市
183 南砺市
530 氷見市

n = 812

n =

ご参考

2007

18 富山市
13 金沢市
4 福井市

2024

55 富山市
13 金沢市
2 福井市

スライド2：呉西圏域の人口危機と「社会減」の構造

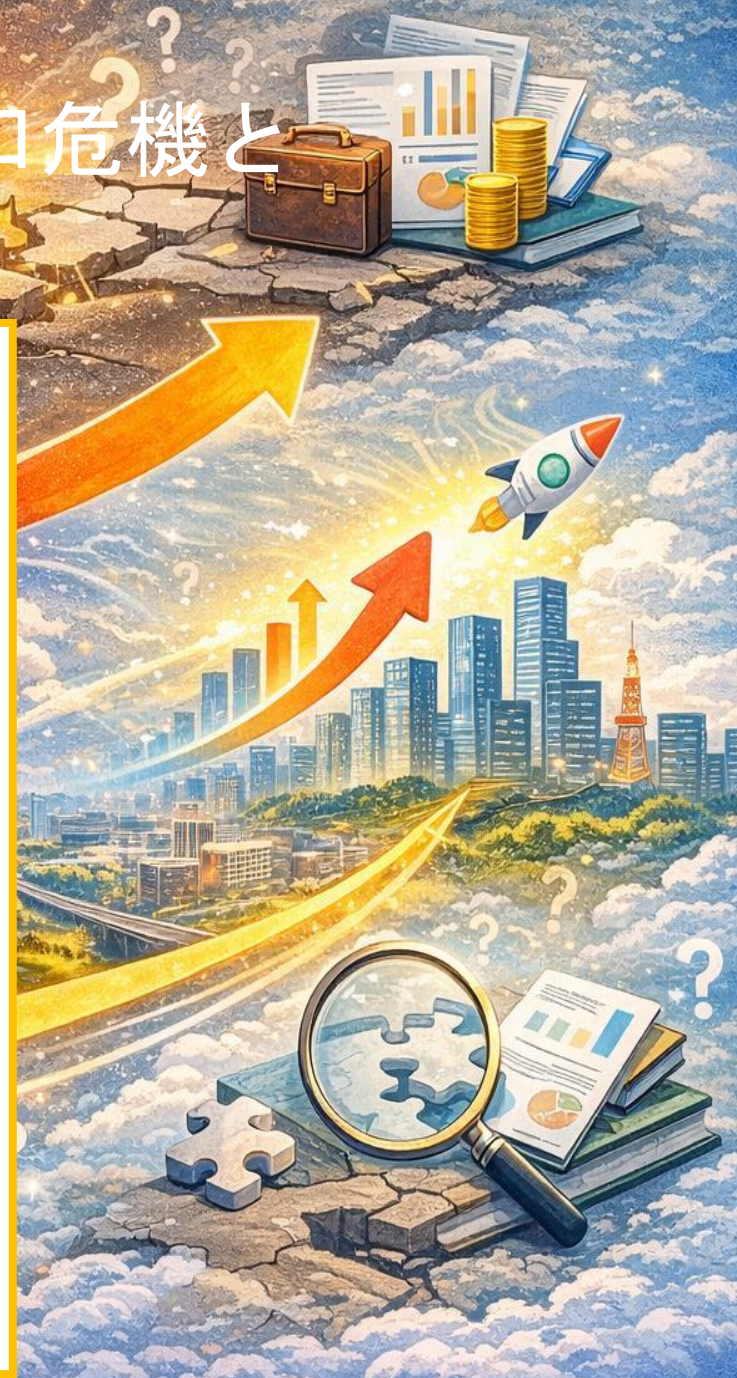
現状： 日本全体を上回るペースでの人口減少と少子高齢化の進行

衝撃： 2024年人口戦略会議による氷見市・南砺市の「消滅可能都市」再選定

本質的課題： 出生数減を上回る、若年層を中心とした深刻な「社会減」

流出経路： 高校・大学卒業を契機とした東京圏・都市部への恒常的流出

構造的欠陥： 圏域内に若者の自己実現を支える「選択肢」が不足している事



人口指数

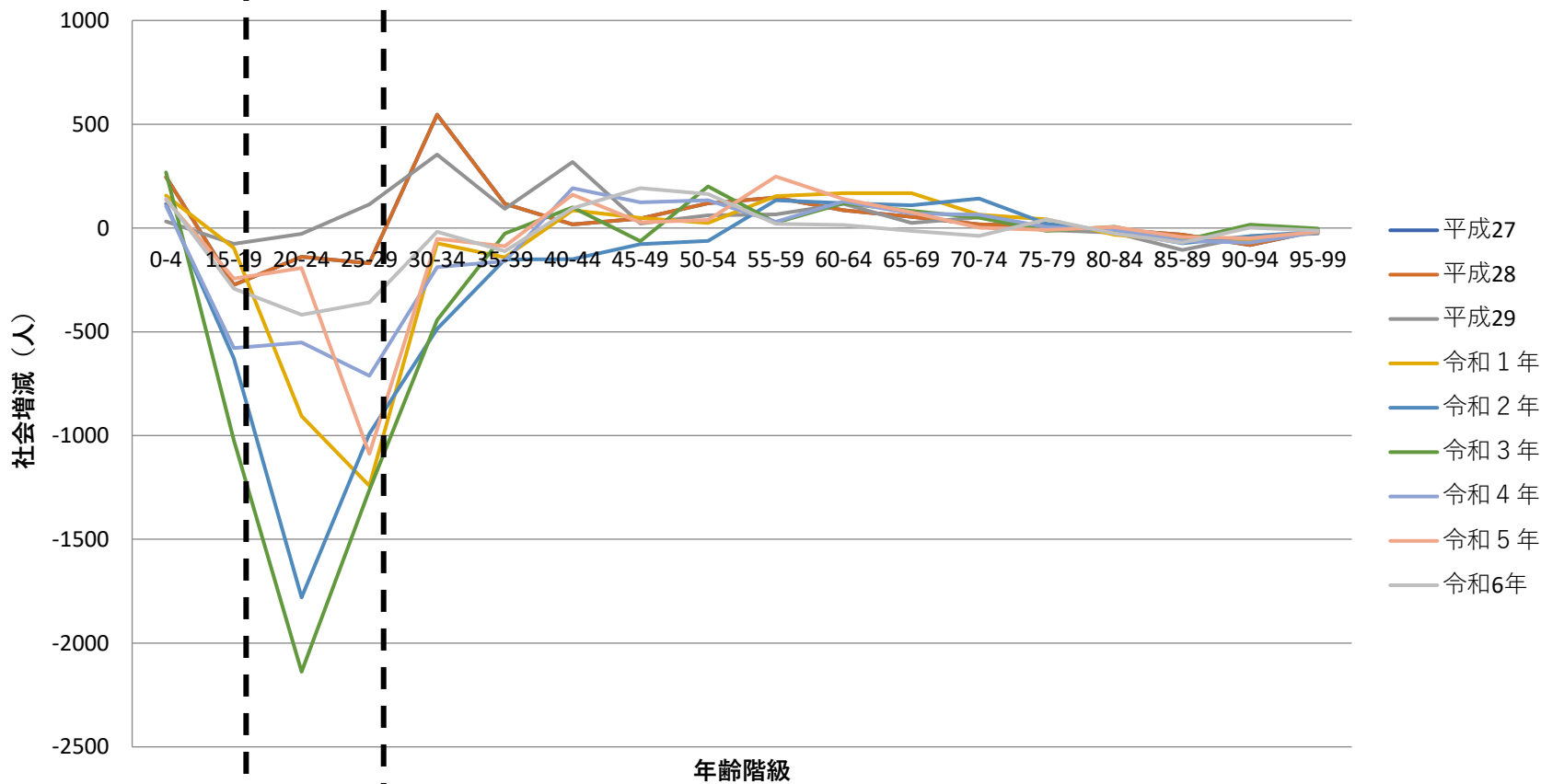
地域／年	2005	2010	2015	2020
高岡市	100	97.15	94.98	91.81
射水市	100	99.34	97.98	96.32
砺波市	100	99.96	99.13	97.42
氷見市	100	94.92	88.07	80.65
南砺市	100	94.12	88.28	82.45
小矢部市	100	95.63	90.65	86.43
呉西地域計	100	97.14	94.08	90.47

呉西圏域全体の人口指数は2005年を100とすると2020年には90.5となり、約1割の人口減少が確認される。一方、自治体間では減少速度に大きな差が存在する。氷見市および南砺市において人口減少が顕著である一方、射水市および砺波市では比較的緩やかな減少にとどまっていることが確認された。

富山県年齢階級別社会増減

20歳~30歳ゾーン

富山県 年齢階級別社会増減 (折れ線)



各県内高校の大学への進学者数<流出先>4年生大学

2024年_旺文社調べを加工

富山県			
順位	合計		
	出身高校の所在地	実人数	各県内大学進学者における割合
1	富山	919	20.3%
2	石川	913	20.2%
3	東京	488	10.8%
4	愛知	334	7.4%
5	京都	269	5.9%
6	大坂	230	5.1%
7	新潟	198	4.4%
8	神奈川	171	3.8%
9	長野	95	2.1%
10	千葉	94	2.1%
その他		813	18.0%
合計		4,524	100.0%

石川県			
順位	合計		
	出身高校の所在地	実人数	各県内大学進学者における割合
1	石川	2,789	49.0%
2	東京	464	8.1%
3	京都	359	6.3%
4	富山	343	6.0%
5	大阪	310	5.4%
6	愛知	204	3.6%
7	神奈川	150	2.6%
8	兵庫	149	2.6%
9	福井	148	2.6%
10	滋賀	88	1.5%
その他		693	12.2%
合計		5,697	100.0%

福井県			
順位	合計		
	出身高校の所在地	実人数	各県内大学進学者における割合
1	福井	1,229	31.3%
2	京都	472	12.0%
3	大阪	362	9.2%
4	石川	347	8.8%
5	東京	266	6.8%
6	愛知	260	6.6%
7	兵庫	150	3.8%
8	富山	105	2.7%
9	滋賀	102	2.6%
10	神奈川	71	1.8%
その他		557	14.2%
合計		3,921	100.0%

スライド3：既存施策の限界と本研究の問い

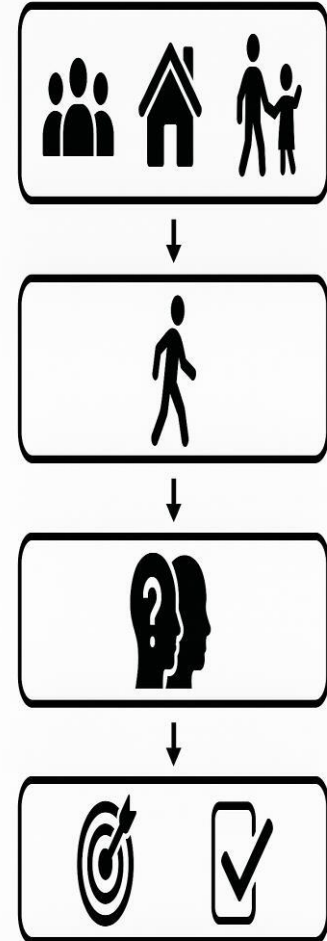
施策の現状：各自治体による個別の移住支援、住宅補助、子育て支援の展開

ミスマッチ：施策の充実にもかかわらず、若年層の流出に歯止めがかからない矛盾

研究の問い：「なぜ既存の定住促進策は若者の心に響かないのか？」

仮説：住民の属性（層）によって、地域に求める価値が根本的に異なるのではないか

目標：エビデンスに基づき、移住・定住促進策を「再定義」すること



スライド4：調査設計と多角的分離（A～D層アプローチ）

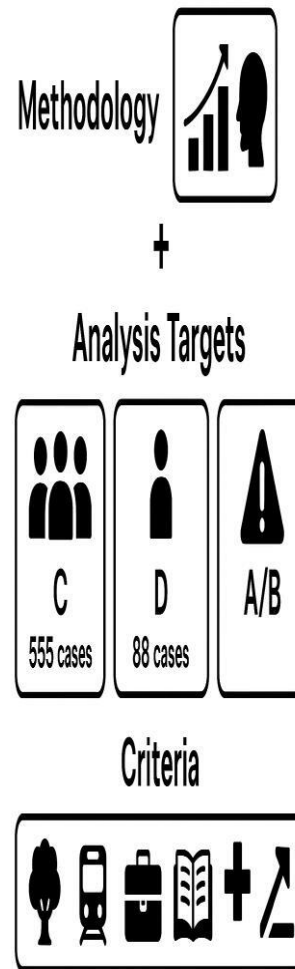
手法： SPSSを用いた定量的多変量解析 + 自治体ヒアリングによる質的調査

分析対象（C層）： 未来の選択を控える若年層（高校生） 555件

分析対象（D層）： 地域基盤を支える未移住層（県内在住者） 88件

分析対象（A/B層）： 実移住層および検討層による阻害要因の特定

評価項目： 自然、交通、雇用、教育、医療、キャリア実現性など多岐にわたる指標



第2部：SPSS分析による意識構造の特定？

スライド5：C層（高校生）の地域評価構造

理想と現実

高評価項目：「自然の豊かさ（Q6_1）」が記述統計で最高値。地域への愛着の源泉。

低評価項目：「交通アクセス（Q6_2）」および「就職先の豊富さ（Q6_4）」が最低水準。

認識の乖離：「住むには良いが、働くには不安」という若者のリアルな葛藤。

期待値：教育環境については一定の満足度（中程度）を得ている。

示唆：「自然が良い」というアピールは、若者にとって既に「前提」であり「決定打」ではない。



スライド6：【核心】C層（高校生）の将来定着意向を規定する要因（重回帰分析）

【核心】C層（高校生）の将来定着意向の規定要因（重回帰分析）

有意な要因

教育環境（Q6_3） $\beta=.144$ ($p=.003$)

生活利便性（Q6_5） $\beta=.127$ ($p=.010$)

自然環境（Q6_1） $\beta=.111$ ($p=.016$)

非有意要因

交通アクセス（Q6_2）

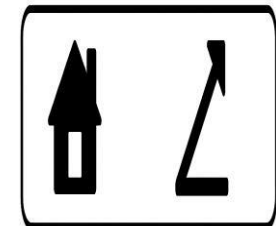
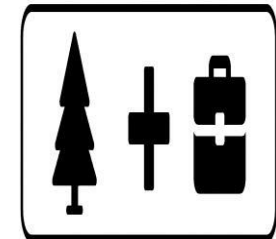
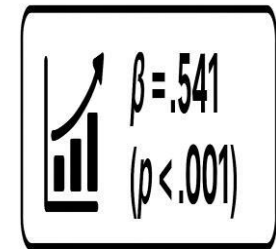
就職機会（Q6_4）

キャリア実現性（Q7） $\beta=-.053$ ($p=.181$)

解釈

高校生の定着意向は生活環境・教育環境の評価に強く影響される。

一方でキャリアの不透明さは定着意向を弱める方向に作用している可能性がある。



FUTURE-ORIENTED MODEL

スライド7：D層（県内在住層）の定着意向：安定の論理

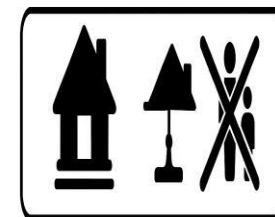
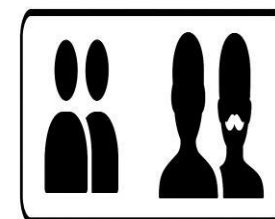
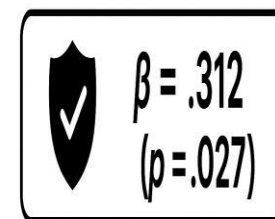
最重要変数：「安全・安心感（Q8c）」が $\beta = .312$ ($p = .027$) で有意な正の影響。

属性の影響：年齢が高いほど、また男性であるほど定着意向が強まる統計的傾向。

評価の軸：生活の便利さや全体満足度は高いが、それが「定着」を直接規定しない。

モデル名：「生活安定型モデル」——既存の生活基盤の維持と安全性を最優先。

示唆：D層向け施策（現状維持・福祉）を若年層（C層）に適用する誤謬。



STABILITY MODEL

スライド8 C層とD層の対照的構造：Dターゲット別アプローチの必要性

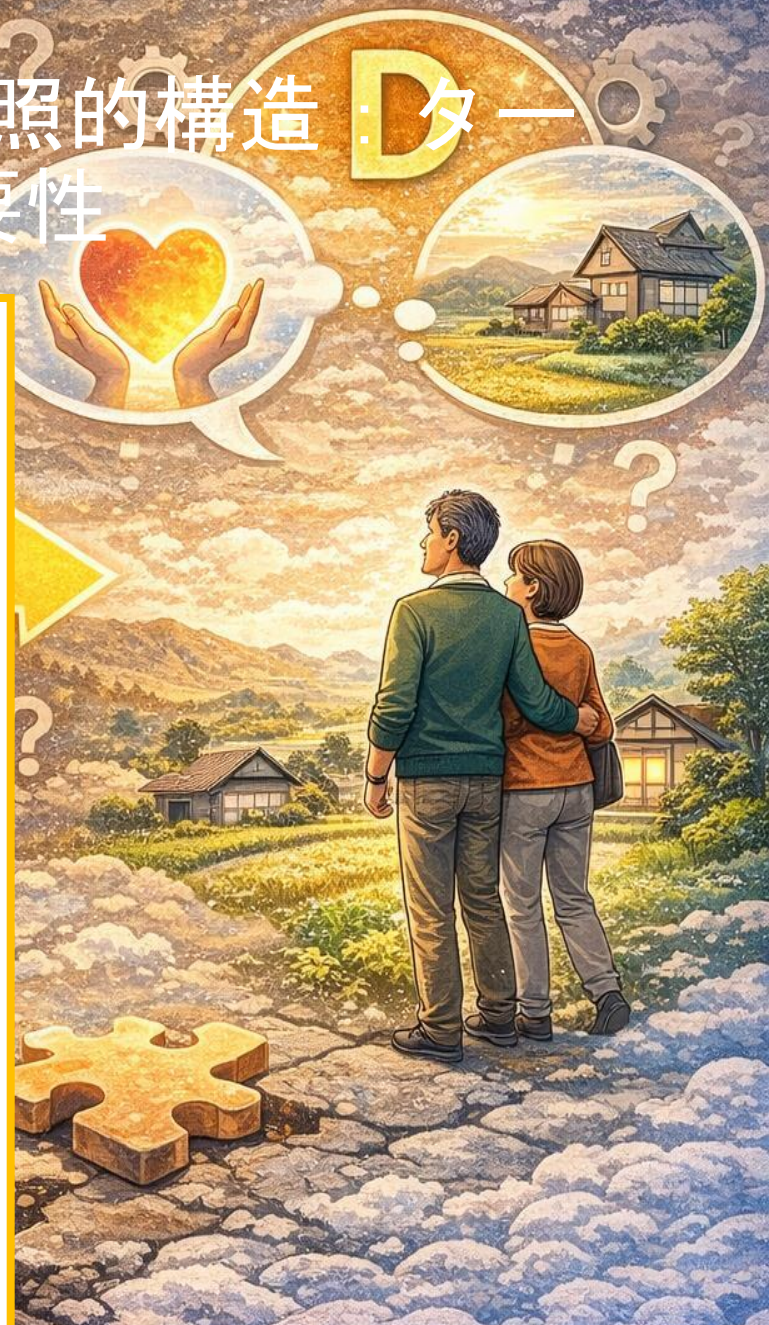
中核的乖離： C層は「将来（機会）」を、D層は「現在（安定）」を地域に求めている。

非有意の共通点： 両層とも「自然環境」は定着の直接的な規定要因になっていない。

ライフステージ理論： 進路選択期の若者と、生活基盤形成済みの居住層での意識分離。

情報発信の誤り： ターゲットを混同した「一律の住みやすさPR」の無効性。

戦略的転換点： ターゲットごとに異なる「価値」を提示するセグメント戦略の必要性。



スライド9：分析から導かれる 「定着の三角形」

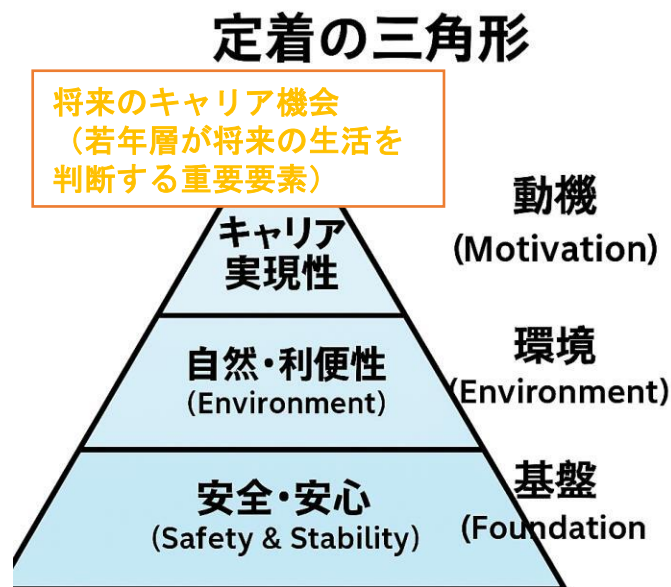
底辺（基盤）：安全・安心（D層が重視、行政の基本サービス）。

側面（環境）：自然・利便性（評価は高いが、決定打にはならない）。

頂点（動機）：将来のキャリア機会（C層が重視、定着のスイッチ）。

ダイナミズム：基盤があっても、頂点（キャリア）がなければ若者は流出する。

提言：頂点部分をいかに「広域」で構築するかが今後の焦点。



基盤があっても、
頂点があれば
若者は流出する。

第3部：自治体ガバナンスと広域連携の必然性

スライド10：6市自治体アンケートに見る「単 独市モデル」の限界

現状分析：各市とも「住宅支援」に偏重した同質的な施策パッケージ。

構造的矛盾：予算・リソースを個別に投じるが、ターゲットが重複し効率が低下。

ゼロサム・ゲーム：近隣市間での「人口の奪い合い」による、圏域全体の疲弊。

自己認識：自治体担当者も「単独での企業誘致や大学設置」に限界を感じている。

課題の共通化：「IT・デジタル職の不足」「若者の選択肢限定」という共通の壁。



スライド11 呉西圏域の潜在的「広域補完性」の再発見

高岡市： 都市機能の中核、高度な移住コンシェルジュ機能。

射水市・小矢部市： 職住近接の多様性と、県西の玄関口としての交通利便。

氷見市・砺波市： 子育て支援の先進性と、豊かな自然環境のパッケージ。

南砺市： 独自の伝統文化と、深い地域コミュニティによるライフスタイルの提示。

補完関係： 各市の強みを繋げば、圏域全体で「最強の生活・就業圏」が完成する。



呉西圏域の潜在的「広域補完性」の再発見

氷見市：子育て支援の先進性と、豊かな自然環境の📦。

高岡市：都市機能の中核、高度な移住コンシェルジュ機能。

小矢部市：職住近接の多様性と、県西の玄関口としての交通利便

射水市：職住近接の多様性と、県西の玄関口としての交通利便

新高岡
北陸新幹線で
約15分

南砺市：独自の伝統文化と、深い地域コミュニティによるライフスタイルの提示。

砺波市：子育て支援の先進性と、豊かな自然環境のパッケージ。

東京→新高岡
北陸新幹線で
約2時間40分

約2時間30分

車で
約3時間15分

呉西圏域の機能分担と役割配属のイメージ

地図 富山WESTnet

各市の強みを繋げば、圏域全体で「最強の生活・就業圏」が完成する。

スライド12：「キャリア・ポートフォリオ型定住モデル」の構想

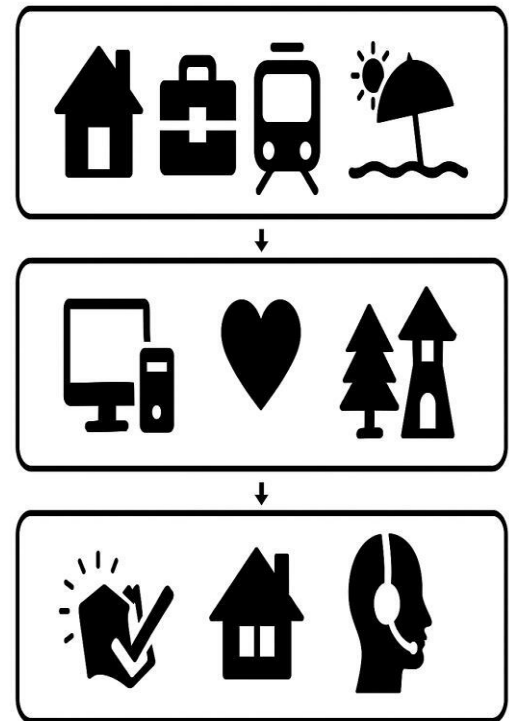
定義： 一つの市に「居住・就労・余暇」を求めず、圏域全体でそれらを構成する。

メリット： 若者に対し、単独市では不可能な「多様なキャリアの選択肢」を提示。

具体例： 「高岡でIT企業に勤め、南砺の伝統的な家に住み、週末は氷見で海を楽しむ」。

心理的効果： 圏域全体を「自分のフィールド」と捉えることで、流出の心理的障壁を高める。

行政の役割： 市境を越えた「生活・就労の最適化」を支援するコンシェルジュ機能。



スライド13：広域リソースの統合による「産業の厚み」

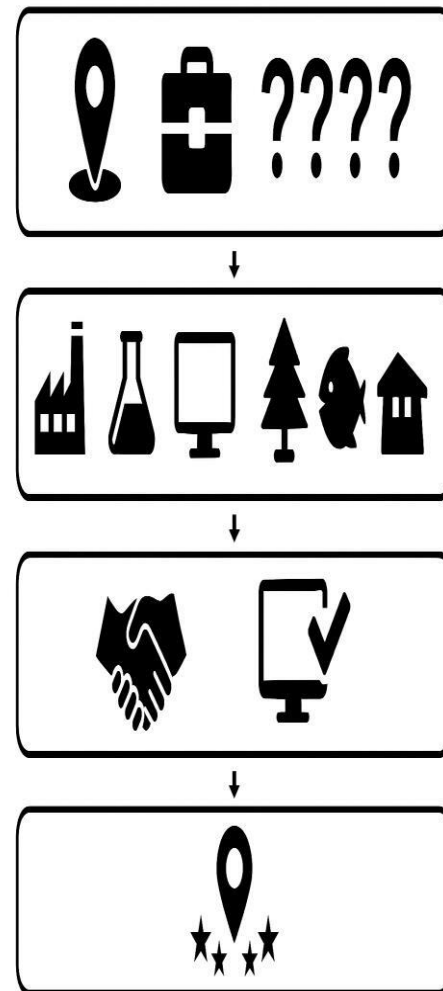
現状： 単独市では「希望する会社がない」と言われる呉西圏域。

統合の視点： 6市合わせれば、アルミ・薬品・IT・農林水産と、極めて多様。

情報の非対称性： 若者が「圏域全体の求人情報」にアクセスできる経路が不在。

解決策： 6市合同のインターンシップおよびジョブマッチング・プラットフォーム。

価値： 「呉西圏域に行けば、何らかのキャリアが見つかる」というブランド化。



スライド14：ガバナンスの刷新：呉西圏 域定住促進局（仮称）

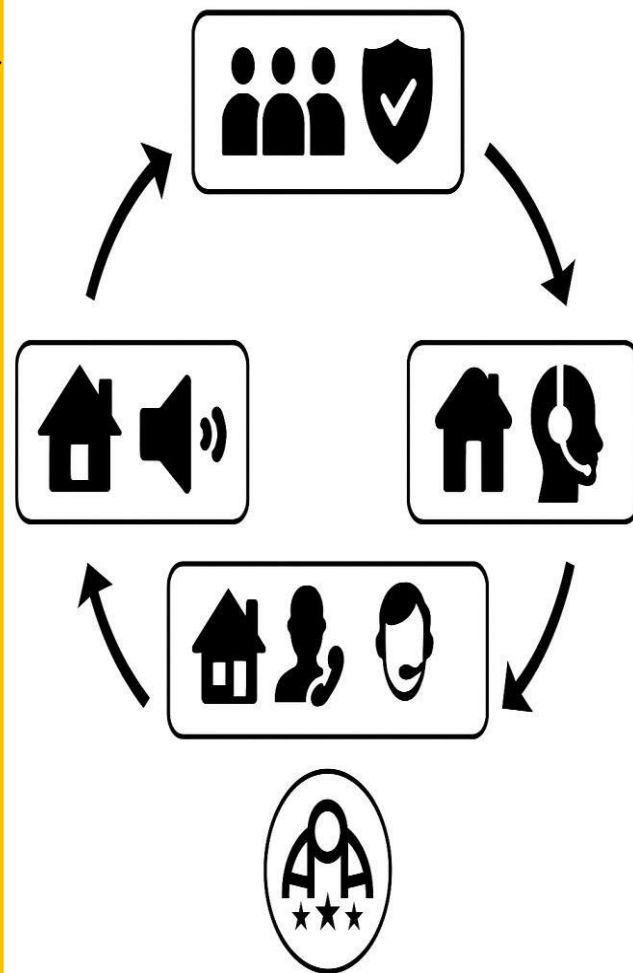
組織案： 従来の「連絡会議」を超えた、
実務・予算権限を持つ合同組織。

ミッション（1）： 施策の重複（住宅
支援等）を調整し、各市の機能特化を
推進。

ミッション（2）： 圏域全体での一元
的なプロモーションと、相談窓口の統
合。

ミッション（3）： データに基づいた
広域的な人口動態のモニタリングと政
策修正。

意義： 6市が「一つの都市圏」として、
都市部や他の圏域と競合する体制



第4部 具体的施策の提言と未来展望
スライド15 提言1：圏域横断型「キャリア形成支援」

アクション： 6市合同の「若年層向けジョブ・ポータル」の開設。

内容： 製造業からクリエイティブ職まで、圏域内の多様なキャリアを可視化。

教育連携： 地元高校・大学での「呉西圏域キャリア教育」の標準化。

インターン： 市境を越えた企業間インターンシップ制度の創設。

ターゲット： C層（高校生）に対し、「地元で働く選択肢」を早期に刷り込む。



スライド16：提言2：「呉西圏域パスポート」による生活圏の統合

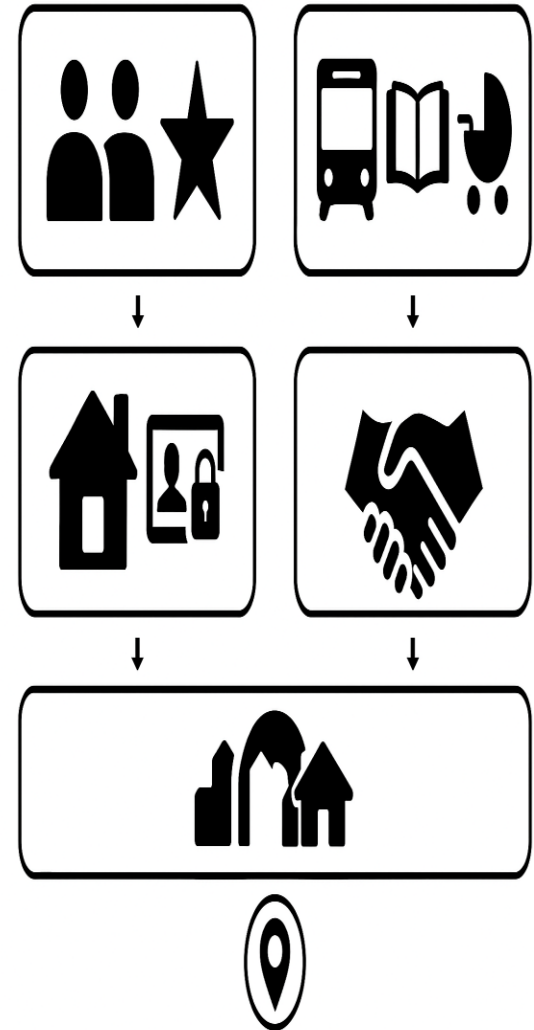
アクション： 6市民が等しく圏域内の公共・民間サービスを楽しむ仕組み。

居住要件の緩和： 補助金受給の際、圏域内の移動を「継続居住」とみなす柔軟な運用。

サービス連携： 公共交通、図書館、子育て施設などの相互利用と優待。

デジタル基盤： デジタルIDを活用した、圏域内サービスのシームレスな体験。

心理的効果： 「自分は呉西圏域の住民である」というアイデンティティの醸成。



スライド17：提言3：二拠点居住・リモートワークの戦略的誘致

ターゲット：首都圏等のB層（検討層）および高度IT人材。

基盤整備：都市型（高岡）と自然型（南砺・氷見）のサテライトオフィス網。

コミュニティ支援：地域住民と移住者を繋ぐ「エリア・マネージャー」の配置。

ワークスタイル：複業（パラレルキャリア）を前提とした、地元企業とのマッチング。

目的：圏域内に「新しい働き方」のロールモデルを増やし、若者の憧れを創出。



政策による人口循環



循環構造(重要)



スライド18：エビデンスに基づく「政策評価（KPI）」の導入

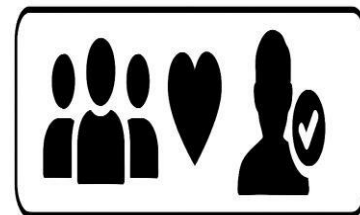
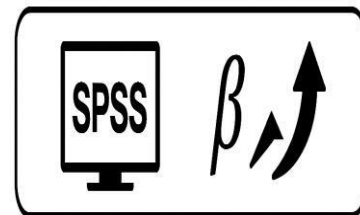
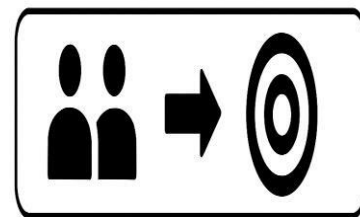
指標の転換： 単なる移住者数（Headcount）から、若年層の定着意向度へ。

SPSSの継続利用： 毎年調査を実施し、規定要因（ β 値）の変化をトラッキング。

定性的評価： キャリア実現性を感じている若者の割合を最重要指標とする。

透明性： 分析結果を公開し、住民とともに政策をアップデートする体制。

持続可能性： 勘と経験に頼らない「データ駆動型ガバナンス」の確立。



DATA-DRIVEN GOVERNANCE

スライド19：本論のまとめ

結論1

若年層の定着意向は教育環境・生活条件の評価に影響される

結論2

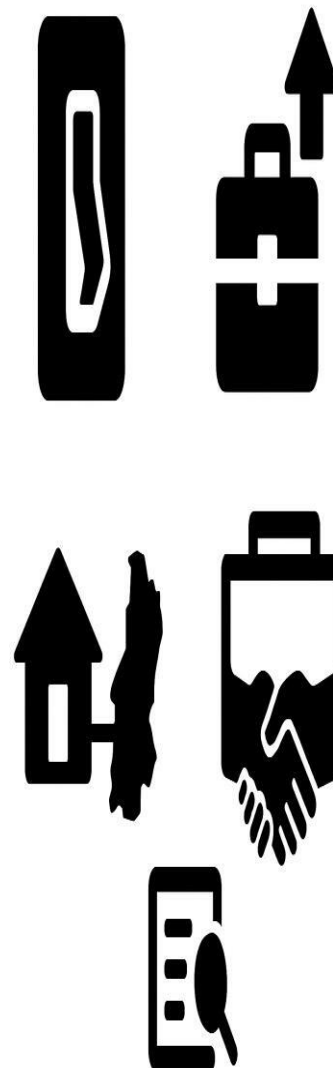
しかし若者流出の背景にはキャリア機会の不足という構造問題が存在する

結論3

単独市モデルではキャリア選択肢を十分に提示できない

結論4

その解決がキャリア・ポートフォリオ型広域連携

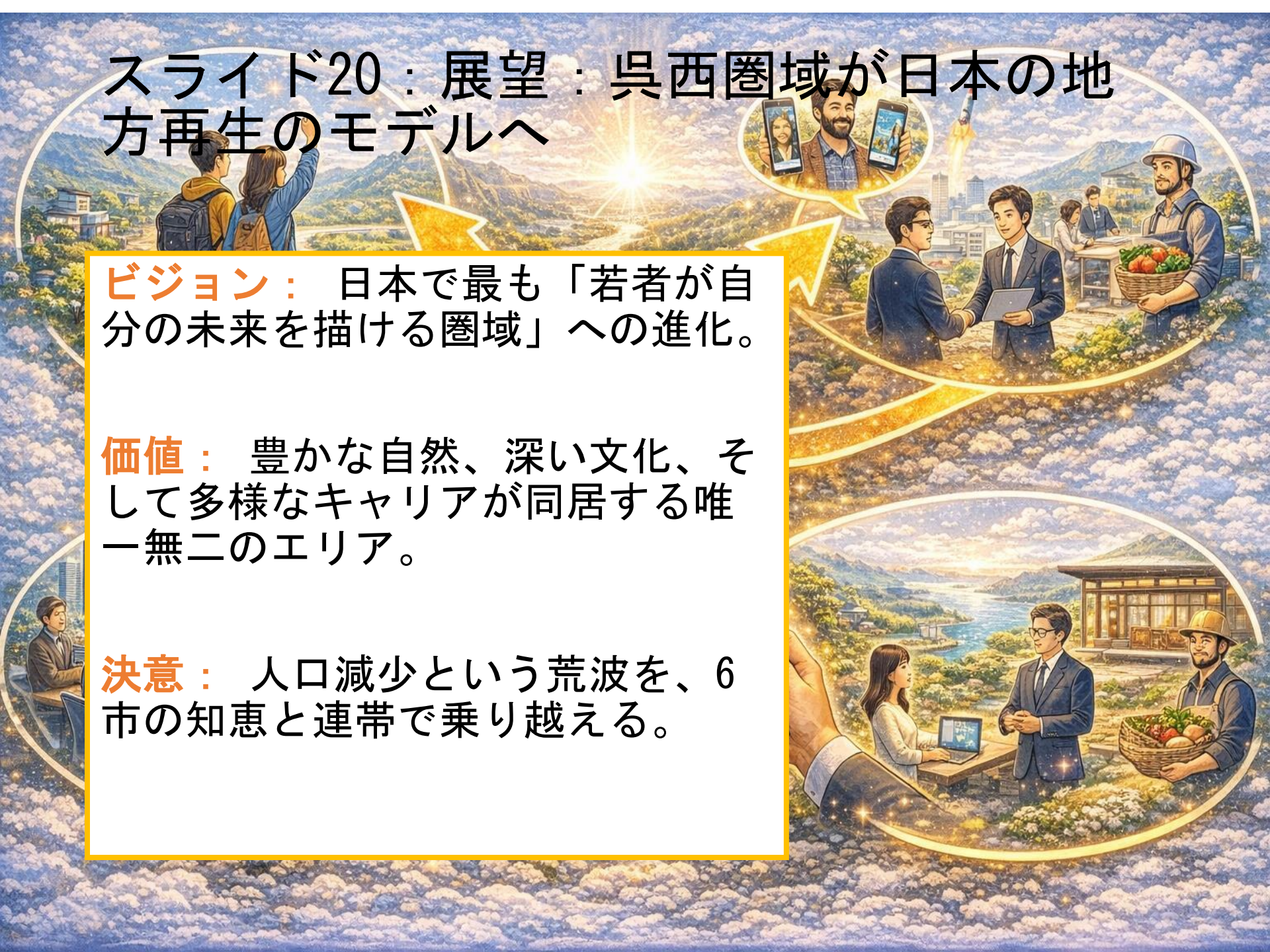


スライド20：展望：呉西圏域が日本の地方再生のモデルへ

ビジョン：日本で最も「若者が自分の未来を描ける圏域」への進化。

価値：豊かな自然、深い文化、そして多様なキャリアが同居する唯一無二のエリア。

決意：人口減少という荒波を、6市の知恵と連帯で乗り越える。



ご清聴ありがとうございました。

とやま呉西圏域調査研究事業報告会
2026年2月16日（月）

スポーツを核とした富山県呉西圏域における持続可能な移住・定住促進戦略

～人口減少社会に打ち克つ
「富山型デュアルキャリア」×「地域交流イベント」モデル

高岡法科大学 八坂ゼミ

チーム 未来ある若者

森夢矢	阿部英樹	岡崎奏汰
亀田春花	中村柚月	野嶽汰成

課題・解決策・そ して目指す姿

課題: 富山県呉西圏域の深刻な人口減少、特に若年層の流出と少子高齢化。

解決策: 「スポーツ」を核とした2つの柱による移住・定住促進戦略。

① アスリートのデュアルキャリア支援

② 地域交流型スポーツイベントの開催

目指す姿: 地域経済の活性化、コミュニティの強化、持続的な人口増加の実現。

目次

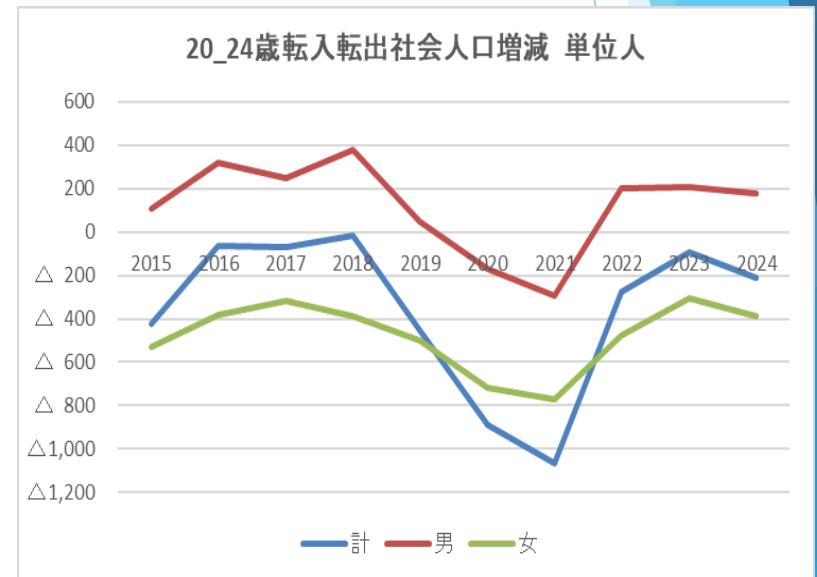
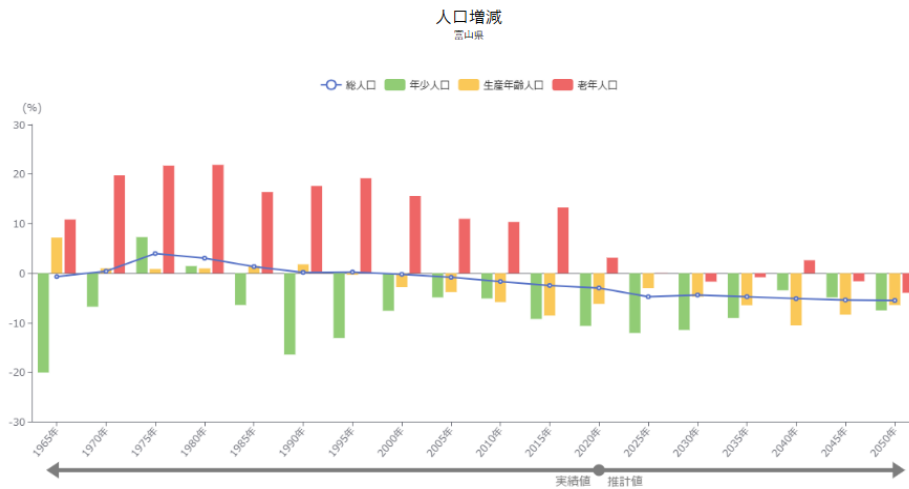
1. 現状分析と課題提起
(課題の可視化)
2. アイデア提案 (解決策)
3. 独自性、実現可能性、
および波及効果
4. 成果と結論

現状分析と課題提起（課題の可視化）

呉西圏域が直面する人口減少の現状 富山県全体の人口動態 特に深刻な若年層の流出

▶ 総人口25年連続減少、自然動態21年連続減少、社会動態5年連続減少。

▶ 20歳から24歳の女性の恒常的な転出超過

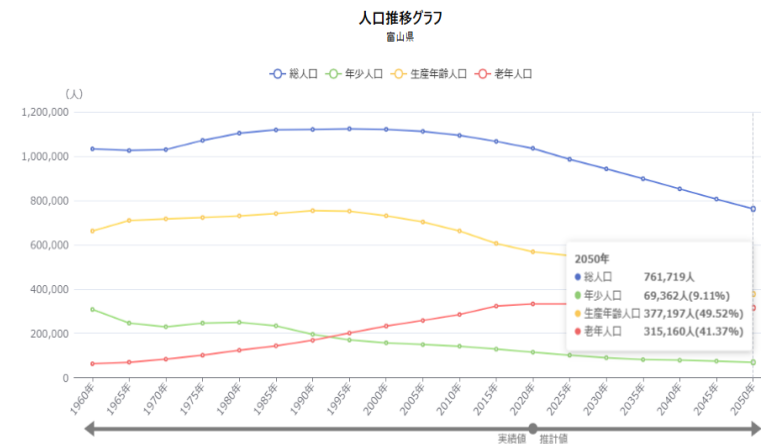


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

現状分析と課題提起（課題の可視化） データで見る富山県呉西圏域の課題

グラフ: 人口推移グラフ

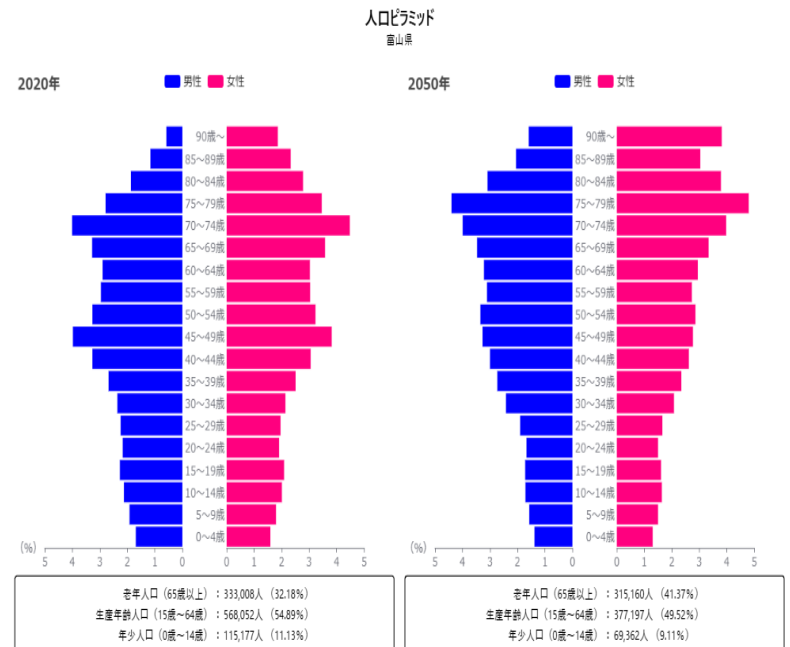
（富山県全体の将来推計人口：2050年に76万人）。



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

表: 人口動態の主要指標

（年少人口率11.1%→9.1%、高齢人口率32.2%→41.4%）



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

**結論: 人口減少は単なる数字の問題ではなく、
地域社会の存続に関わる喫緊の課題。**

現状分析と課題提起（課題の可視化）

若年層流出がもたらす複合的影響と新たな視点

複合的影響

- **経済的影響:** 労働力人口の減少、地域経済の縮小、税収の減少。
- **社会的影響:** 地域コミュニティの担い手不足、行政サービスの持続可能性低下。
- **複合的影響:** 若年女性の流出が、出生数減少、多様性の喪失、人口再生産能力の低下という根源的な問題を引き起こす。

新たな視点

- これまでの移住・定住施策（例：UIターン支援、子育て支援）は一定の効果があったものの、若年層の定着には繋がりにくい側面があった。
- **新しい視点:** 地域に「身体的接触」を通じて「居場所」を創出するアプローチが必要。
- **解決の糸口:** 「スポーツ」が持つ「人」と「人」、「人」と「地域」をつなぐ力。

アイデア提案（解決策）

その1：富山型
デュアルキャリア
推進モデルの推進

その2：地域交流型スポーツ
イベント「スポーツロゲイニ
ング」との連携



アイデア提案（解決策）

①：富山型デュアルキャリア推進モデル

現状: アスリートは競技と仕事の両立、セカンドキャリアに不安を抱えている。

提案: 企業と連携し、アスリートが安心して競技を続けられる環境を整備。

目的: アスリートを「人財」として地域に定着させ、労働力確保と地域のロールモデルを創出。

施策1: 企業による「オフィスカジュアル」導入。

効果: アスリートの精神的・肉体的負担を軽減し、パフォーマンス維持に寄与。

施策2: 業務環境の「ワークディスクロージャー」と相談サイトの設置。

効果: 企業とアスリート間の情報格差を是正し、安心できる労働環境を構築。

アイデア提案（解決策）

デュアルキャリアの成功事例（富山銀行の取り組み）

事例紹介: 富山銀行に所属するアスリート行員の紹介。

アスリート: 福島 聖(陸上)、青沼 健太(ハンドボール)、高木 アレキサンダー(ハンドボール)、長屋 虹輝(ハンマー投げ)。

示唆: 地域に根ざした企業が「二刀流」を支援するモデルは、他の企業への強力な示唆となる。



男子100m 富山県記録保持者（10秒17）
富山県選手権 男子100m 5連覇
2017年 全国高校総体 男子200m 優勝
2022年セイコーゴールデングランプリ陸上 男子100mファイナリスト
2025年日本陸上競技選手権 男子100mセミファイナリスト

福島聖選手



リーグH 富山ドリームス 所属
2017年 高校総体 優秀選手
2017年 国民体育大会準優勝

青沼 健太選手



リーグH 富山ドリームス 所属
2019年 全日本学生選手権 3位
2019年 第8回男子ユース世界選手権 9位

高木 アレキサンダー選手



ハンマー投げ 北信越学生記録保持者（62.54m）
富山県選手権 5連覇
2017年 国民体育大会少年A 4位入賞

長屋 虹輝選手

写真提供：富山銀行

アイデア提案（解決策）

地域交流型スポーツイベント「高岡スポーツロゲイニング」

- ▶ **コンセプト:** 観光スポットを巡るロゲイニングで、楽しみながら地域の魅力を体感。
- ▶ **イベント概要:** 高岡市を舞台に、地元のプロスポーツ選手（富山GRNサンダーバーズ、富山ドリームスなど）も参加。
- ▶ **ターゲット:** スポーツ好きの若年層、特に定住・移住

スポーツロゲイニングとは？
地図上に設定されたチェックポイントを制限時間内で巡りスポーツ体験や写真撮影をして特点を集めるスポーツイベント

アイデア提案（解決策） イベントがもたらす「出会い」と 「定着」効果

「つながり」の創出: チームで協力する体験を通じて、参加者と地元住民の一体感を醸成。

心理的ハードルの低減: 地域の「居場所」を先行して形成することで、移住後の孤立を防ぐ。

多層的な出会い: 友情、地域住民との交流、地元アスリートとの接点、地域の魅力との出会いを創出

他県からの移住・定住者の増加を促す。

アスリート社員が地域の学校やコミュニティセンターでスポーツ教室やキャリア講話が増える。



若者のロールモデルとなる

独自性、実現可能性、および波及効果

本提案の独自性と地域課題への適合性

独自性: アスリートという「人財」に焦点を当て、雇用とコミュニティの両面からアプローチ。

適合性: 富山県呉西圏域都市圏ビジョン(経済成長のけん引、都市機能の強化、生活関連機能サービスの向上)に合致

地域への効果

- 富山での暮らしを具体的にイメージできる
- スポーツ好きな若者にも興味を持ってもらえる
- 出会いの場を演出
- 移住への心理的ハードルを下げれる

イベントがもたらす「出会い」と「定着」効果 地域交流イベント (若者限定)

▶ 富山県魚津市で、夜の遊園地を貸切で行われる「ミラージュランドコンパ」略して「ミラコン」。2012年から始まりこれまで20回以上、毎回1000人以上が参加する北陸最大級の合コンイベント



- ・ 若年層が地域に入りやすくなる。
- ・ 地域の活性化・労働力の確保
- ・ 人口増加につながる。
- ・ 過疎化の解決策になる。



独自性、実現可能性、および波及効果

実現可能性と持続可能性

デュアルキャリア: オフィスカジュアルや相談サイトは比較的容易に実現可能。スポーツ庁や労働団体との連携で実効性を高める。

スポーツイベント: 地元アスリートや関係機関との協力体制構築により、効果は最大化。

持続可能性: 企業とアスリートの双方にメリットがあり、行政の補助がなくても自律的に継続する可能性が高い

地域交流運動会

- スポーツ大会
- 食事会
- スポーツ体験や交流会
- 移住相談ブース
- 仕事・住まいの情報提供

独自性、実現可能性、および波及効果 汎用型モデルとしての可能性

横展開: 高岡市での成功事例を、呉西圏域内の他市町村へ横展開可能。

全国への波及: アスリートの雇用問題や若年層の地域離れは全国共通の課題。本モデルは、他の地方都市にも応用可能な「汎用型移住・定住モデル」となり得る。

成果と結論

期待される具体的な成果（KPI）

人口: 他県からの移住・定住者の増加（特にアスリート層と若年層）。

コミュニティ: 地域コミュニティの活性化、地域への愛着と定住意欲の向上。

経済: 労働力の確保と地域経済への貢献

成果と結論

実施体制とロードマップ

フェーズ1(初期): デュアルキャリア推進モデルのパイロット運用開始、スポーツロゲイニングの開催(地元企業・アスリートとの連携)。

フェーズ2(拡大): 呉西圏域内他市町村へのモデル展開、連携イベントの開催。

フェーズ3(定着): 汎用型モデルとして全国に発信。

成果と結論

まとめと決意表明

結論: 富山県呉西圏域が直面する人口減少の課題に対し、スポーツは単なるレジャーではなく、地域社会を持続可能にするための強力なエンジン。

決意: スポーツの力を通じて、活力ある持続可能な地域社会を築き、未来を担う若年層を呼び込むことに貢献します。

**スポーツは
「人と人」「人と地域」をつなぐ強い力**

ご清聴ありがとうございました。

とやま呉西圏域調査研究事業報告会
2026年2月16日（月）

分散型コミュニティによる “役割移住”モデルの構築」と GOSEI移住エバンジェリスト

高岡法科大学八坂ゼミチームB

チーム名：team Go!Say!

齊藤蓮 砂子田大希 岩村快治
炭谷恒毅

目次

- ▶ 1. はじめに：地域の現状と課題意識
- ▶ 2. 地域の資源分析（人的資本・社会資本）
- ▶ 3. 課題に対する仮説
- ▶ 4. 政策アイデア概要
- ▶ 5. 役割分担移住とGESEI移住エバンジェリスト活躍の効果

1. はじめに：地域の現状と課題意識



【地域の概要】

・対象地域：富山県 西圏域（高岡市・氷見市・砺波市・小矢部市・南砺市・射水市の6市）

【特徴】

・歴史的文化、自然環境、産業基盤が豊富な地域

現状と課題

①若年層の流出

・高齢化とともに、特に20代～30代の若者が都市部へ移動

②移住者の孤立

・新たに移住した人々が地域社会に溶け込めず孤立感を抱きやすい

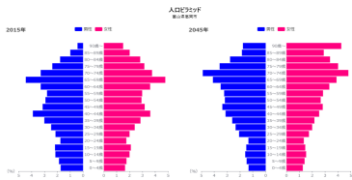
・地域コミュニティとの連携不足や情報格差が課題

③Uターン定着率の低さ

・移住してきた人々の定着率が低い

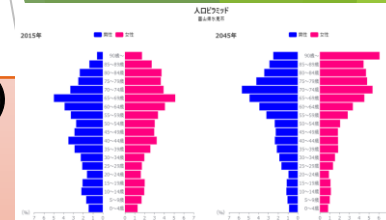
・生活環境や仕事、コミュニティのつながり不足

高岡市

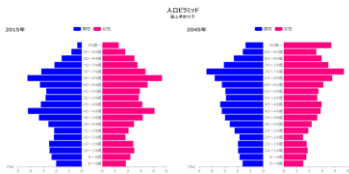


市別人口減少率（2015年→2045年）

氷見市

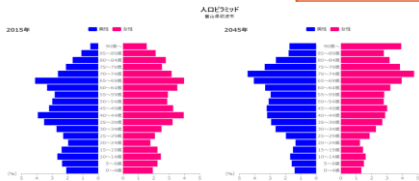


射水市

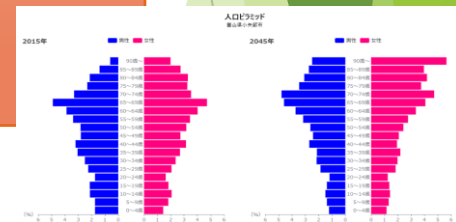


- 高岡市：減少率 → ▲23.6% (172,125→131,477)
- 射水市：減少率 → ▲21.0% (92,308→72,885)
- 氷見市：減少率 → ▲45.6% (47,992→26,111)
- 砺波市：減少率 → ▲15.1% (49,000→41,578)
- 小矢部市：減少率 → ▲34.6% (30,399→19,891)
- 南砺市：減少率 → ▲39.6% (51,327→31,017)

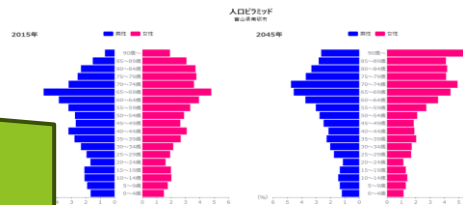
砺波市



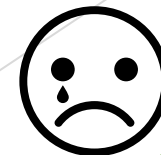
小矢部市



南砺市



富山県呉西地域全体 ▲27%
443,151人→322,959人



社会動態

社会動態の悪化（転出超過）→特に若者・子育て世代の流失

▼
 地元に残る若年層の減少 → 結婚・出産層の母数が減少

▼
 自然減の進行（出生率の低下 × 高齢化）

▼
 全体人口の急激な減少と高齢化の進行
 （2045年までに全体▲27%、氷見市約▲46%）

▼
 地域の持続可能性・地域機能が衰退 → 若年層のさらなる流出を招く

転出の要因：定住に至らない理由【年代別】

世代	主な転出理由
若年層（18-29歳）	進学・就職
子育て世帯	保育・医療・通勤利便
高齢者（65歳以上）	医療・移動の不安

定住に至らない構造

住む場所の提供

入口：移住支援や住宅供給など

▼
 定住に必要な生活環境が整っていない

▼
 （交通、雇用、教育、地域、娯楽）← 不足要素

▼
 「暮らせない」「働けない」「孤立する」状態

▼
 短期的な移住 → 離脱

交通・医療：公共交通の不便さ、病院のアクセス難。

雇用：若者向けの仕事不足、地元就職の選択肢が狭い。

教育・保育：保育園の待機、教育水準や特色に不安。

地域コミュニティ：外から来た人がなじめない風土。

文化・娯楽：若年層向けの遊び場や交流の場が少ない。

RESAS分析：圏域内の産業構造比較



- ▶ 呉西圏域は製造業（特に金属加工・鋳物・アルミ産業）が地域経済の柱で、事業所数・従業者比率が高い一方、砺波平野を中心とした米・花卉（チューリップ）など農業も重要な基幹産業。
- ▶ 沿岸部は漁業・港湾物流が発達し、伝統工芸（高岡銅器等）と中堅・中小製造の連携で付加価値化を図る地域構造が特徴。
- ▶ 高齢化と農漁業・製造の担い手不足が共通の課題。

地場産業はまだまだ伸びしろがある！

2. 地域の資源分析(人的資本・社会資本)

人的資本

- ▶ 認知症カフェ（オレンジカフェ）などは市、医療、NPO、住民主体が一体となって運営されており知識交換、相談の場として機能
- ▶ 自治会においては高齢化、担い手不足を背景に「多機能地域自治」の導入が進行中
- ▶ 従来の役割に加え共助や福祉の視点を強化しようとする取り組みが見られる

社会資本

- ▶ 地域包括ケアシステムは中学校区単位で設計され地域一帯で生活支援、医療、介護の連携に関わる体制
- ▶ 富山県では2017年以降「地域包括ケア実践団体」を登録、公表し支援団体の顕彰にも取り組むなど地域活動の制度的後押しあり

地域のNPO、自治会、地域包括支援センターなど「受け皿」の強み

3. 課題に対する仮説

- 「役割があると人は定着しやすい」
- 「圏域内での役割分担があれば多様な移住が可能」
- 「移住」をサポートしてくれる富山(呉西地区)を愛するスペシャリストが必要

現代の地方社会において、必要なのは単なる「住める場所」ではなく「居場所」(関係性)と「出番」(役割)が両方あることである

そして、そのことを伝えてくれる人がいれば・・・



4. 政策アイデア概要

役割移住とは？ = 役割を担ってもらい移住してもらう

施策1

- ・「分散型コミュニティによる“役割移住”モデル」
- ・圏域6市が連携して、移住者に“役割”を担ってもらう制度を構築

呉西6市に共通する事 = とにかく移住者に事業を立ち上げてもらう。

施策2

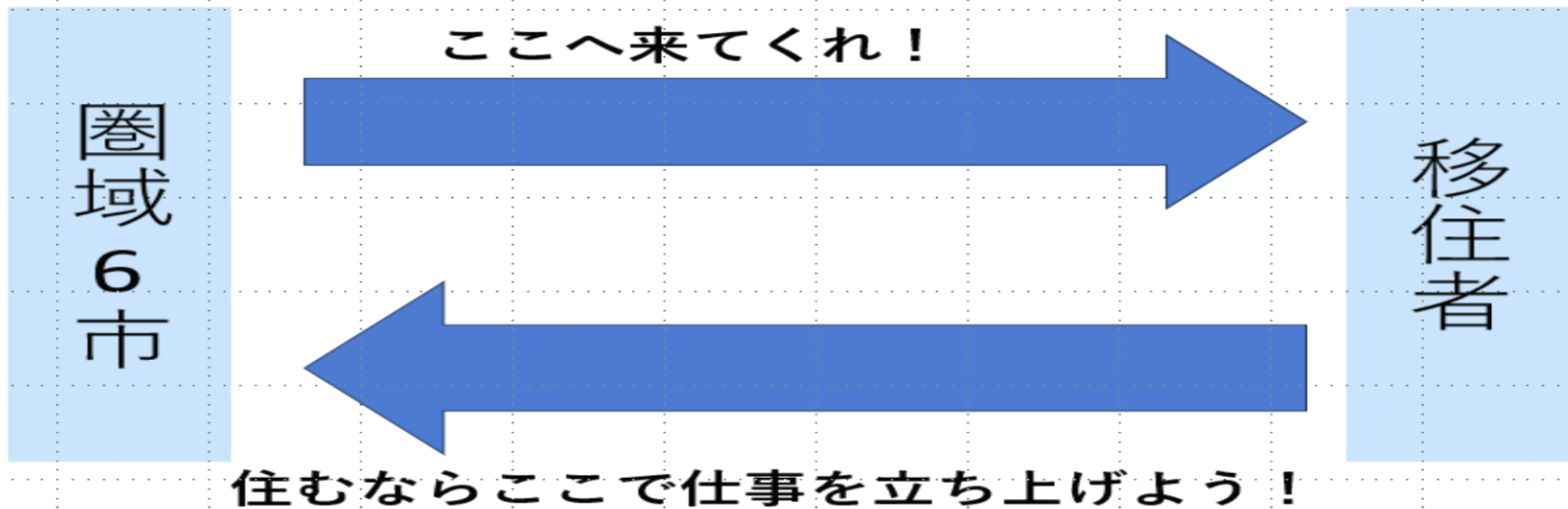
- ・「移住」をサポートしてくれる富山(呉西地区)を愛するスペシャリストの認定制度を創設、認定者を“Gosei 移住エバンジェリスト”に認定→大活躍を期待

施策1

「分散型コミュニティによる“役割移住”モデルの全体図

モデルの全体図

- 圏域6市と移住者の関係を模式図化（地域間連携・役割分担）



住むならここで仕事を立ち上げよう！

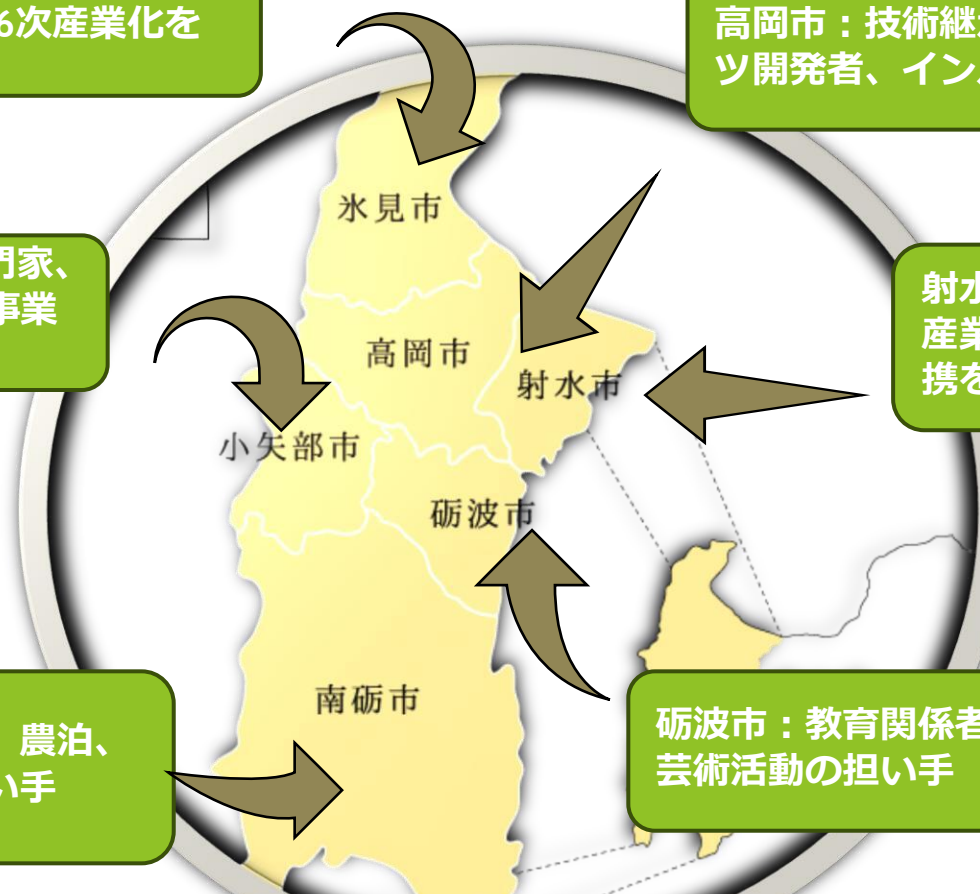
モデルの特徴①:「選べる役割と圏域連携」

氷見市：新規就農者、農業技術者、農業、漁業の6次産業化を担う人材

高岡市：技術継承者、観光コンテンツ開発者、インバウンド対応人材

小矢部市：物流専門家、IT技術者、EC関連事業者

射水市：港湾機能を活かした産業振興/研究開発機関との連携を担う人材



南砺市：自然体験、農泊、地域文化継承の担い手

砺波市：教育関係者・文化・芸術活動の担い手

呉西圏域の機能分担と役割配属のイメージ

・1市で完結せず、6市間でマッチング→広域的な就業・関係構築

モデルの特徴②:「受け皿の整備」

- 地域団体と連携し、受け入れ体制を「制度化」／「伴走支援」実施
 - 寄り添うことが大事
 - 仕事や住まい等を寄り添って話をする。

- 6市の同業者が集まり、その職のスキルアップにつながる勉強会の実施
- 6市の統合商工会の設置
- 6市の産業構造の特徴を活かし、ここにしかないオリジナル商品・文化の協働（交流人口×関係人口×定住人口）によるオリジナル・プロダクトの製造・販売

施策2

GOSEI移住エバンジェリストの誕生と布教活動

- ▶ GOSEI移住エヴァンジェリストとは
- ▶ 富山県呉西地域の観光・伝統文化に精通し、首都圏の人々にその価値を伝えることで、地域への移住を促進する“文化と暮らしの伝道師”と定義。
- ▶ 単なる移住促進の担い手ではなく、地域資源を物語化して都市住民に響く形で発信し、呉西と首都圏をつなぐ懸け橋として活動する人たちと定義。

エバンジェリスト (Evangelist) は、もともとキリスト教における「伝道者」を意味する言葉。IT業界では、技術的話題を社内外に分かりやすく説明・布教する使命を持つ「テクニカルエヴァンジェリスト」という職業も存在。

- ▶ 布教活動とは
- ▶ **地域おこし協力隊の通常業務（地域活動・定住支援・情報発信など）を超え、地域ブランドを首都圏へ伝える架け橋としての使命を担う**

進化モデルの全体図

●圏域6市と移住者の関係を模式図化（地域間連携・役割分担）



関係人口AさんがGOSEIエバンジェリストになるまでのステップ



移住した「定住人口」でもなく、
観光に来た「交流人口」でもない、
地域と多様に関わる人々

関係人口のひとり

地域ブランドや地場製品の開発・
販売・PR等の地域おこし支援や、
農林水産業への従事、住民支援な
どの「地域協力活動」を行いなが
ら、その地域への定住・定着を
図る人たち

地域おこし協力隊員

地域おこし協力隊の通常業務（地
域活動・定住支援・情報発信な
ど）を超え、地域ブランドを首都
圏へ伝える架け橋としての使命を
担う、とにかく、明るい人たち。
富山の自然を愛し、自然と共にい
きる型破りな人間

GOSEI移住エバンジェリスト

GOSEIエヴァンゲリストのイメージ

観光・伝統文化のストーリーテラー

富山県呉西地域の歴史・伝統工芸・自然・食文化を体系的に学び、都市圏の人々にわかりやすく魅力的に伝える。単なる紹介ではなく「物語」として発信する。

移住の魅力首都圏に広めるアンバサダー

東京圏を中心とした首都圏住民に対し、暮らしやすさ・地域資源・コミュニティの温かさを伝え、移住を具体的にイメージさせる。

交流と共創を促すコーディネーター

呉西地域の自治体、地元企業、住民、そして移住希望者をつなぐ「共創の場」をつくり、新しい関係人口・定住人口を創出する。

地域の未来像を共に描くビジョナリー

地域の若者・高齢者・外部人材と協働しながら、「移住後にどんな暮らしやキャリアが築けるか」というビジョンを提示し、地域の未来像を共に描く。

GOSEIエヴァンゲリスト・チーム は、富山の魅力の伝道師

高岡市は、万葉集、伝統
の町だけど、大手ショッ
ピングセンターもあるよ



砺波市と言えば
チューリップ

氷見市の寒ブリは最高！
漁業も農業も体験



自然豊かな南砺市、五箇
山の合掌造りが魅力の「一
流の田舎」

ファッションは小矢部
市にあるアウトレット
で！！



富山のベニス射水
市には、高等教育
機関もあるベッタウ、

5. 役割分担移住とGESEI移住エバンジェリスト活躍の効果

人的資本の活用

●地域課題に応じた移住者配置→即戦力として貢献

- 空き家・空き店舗活動
- 農業後継者不足
- 観光・交流人口減少
- 地域運営組織の高齢化

社会資本の形成

●移住者が「地域の一員」になり孤立せずに定着

- 移住前から地域と接点を持つ
- 着任・引っ越しの【お披露目の場】
- 地域行事・活動に招く仕組み
- 地域担い手段割付き移住

7. 先行事例との差異(独創性)

- 移住 = 「住まう」から「役割を持って参加する」へのパラダイム転換
- GOSEI移住エバンジェリスト認定制度の活性化による、特定自治体による移住・定住推進から近隣広域自治体による協力小協働体制の構築（個人戦から団体戦へ）
- 地域活動の参加、運営側参画、地域課題解決の担い手化
- 首都圏から地域へのお客さん扱いではなく仲間共同主体として受け入れる体制の構築。

8. まとめ

- 移住者・地域双方のメリット

移住者にとって「新たな発見」「移住への気軽さ」

地域にとって「活性化」「知名度の向上」

- 富山の自然と文化を愛する「旅の人」がエバンジェリスト(伝道師)に進化し、新たな移住空間の創出

「分散型コミュニティによる役割移住」が新しい地域循環を生む未来志向型の地方創生2.0の誕生。